BIPROGY 株式会社

2026 年 3 月期　第 1 四半期決算説明会　（2025 年 7 月 31 日開催）

主な質疑応答　（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【質問者 A】

Q：1Q（4-6 月期）の持分法投資利益で一過性の収益を計上したとのことだが、前年同期からの増加分の約 5 億円がその一過性の収益の影響と考えて良いのか。通期業績予想では、持分法による投資損益とその他の収益・費用で 6 億円の計画となっているが、今回の一過性の収益は通期業績予想には含まれていないのか。一過性の収益に伴い、通期でも利益が上振れる可能性があるのか。

A：ご理解の通りである。5 億円程度が一過性の収益で、それを除くとほぼ横ばいの状況である。キャッシュレス事業を行う会社で一部事業を譲渡した。期初時点では、事業売却時期が特定できていなかったため、通期業績予想には織り込んでいなかった。残存事業は堅調に推移しているため、通期で若干の上振れの可能性はある。

Q：「BankVision」の進捗について、ドキュメント代の計上を通期業績予想に織り込んでいると認識しているが、1Q には計上されていない理解でよいか。いつ頃に計上される見込みか。

A：1Q は計上していない。今後の見込みについては、先方も検討中のため現時点では回答が難しいが、下期に計上されるのではないかと思う。

【質問者 B】

Q：システムサービスの受注環境を確認したい。1Q は反動減の影響があったと思うが、反動減を吸収し受注が増加したドライバーは何か。2Q（7-9 月期）以降も継続する見通しか。

A：金融機関向けの大型案件等の受注計上があった。すでに一部は売上にも計上されており、収益性向上にも寄与している。詳細は申し上げられないが、要件定義工程から設計・開発工程に入ったことで案件規模が拡大していることに加え、中小型案件も増加している。生産性向上や外注比率向上、物価上昇を考慮した価格の適正化を進めていることも、収益性向上に寄与している。金融機関向けや公共サービス系案件のパイプラインも順調に積み上がっていることから、2Q 以降もこのペースが継続すると思う。

Q：ユニアデックスの受注動向や需要環境について確認したい。また、1Q はサポートサービスの売上総利益率が低下しているが、一過性の要因か。

A：受注は堅調に推移している。サポートサービスの売上総利益率の低下については、一過性の要因として、前年同期に計上したリベートの反動減が 2 億円程度あった。前年は 1Q と 2Q にリベートを計上していたため、2Q も 1Q と同額程度剥落する可能性がある。また、ユニアデックスにおけるベースアップや新人事制度改定に伴い人件費が上昇しているが、価格に反映しきれていない部分がある。

Q：販管費について、コストコントロール強化は開始しており、手応えを感じているか。社内基幹システム刷新プロジェクト

©2025 BIPROGY Inc. All rights reserved.

も含め、販管費の費消は計画通り進捗しているのか。

A：販管費は見通しに対し計画内で進んでいる。通期では、人件費は 14 億円、研究開発費は 12 億円の増加を見込んでいるが、月次でモニタリングし、しっかりコントロールしていく。人件費のベースアップや賞与分、今後の成長領域に対する投資としての研究開発費は、増収や収益性向上により吸収していく。
社内基幹システム刷新プロジェクトは、6 月のチェックポイントを通過し、単体テストから結合テスト工程に入っている。下期からは、現場を交えた最終的なシステムテストに入る。前年同期比では、3 億円程度のコスト抑制ができている。順調に進捗しており、2026 年 4 月には予定どおり稼働できる手応えを感じている。

【質問者 C】

Q：金融機関向けの大型案件について、もう少し詳細を教えてほしい。2027 年 3 月期も継続する案件か。

A：地方銀行向けの案件である。大型案件のため、2027 年 3 月期も一定の売上計上を期待している。

Q：ハードウェアとソフトウェアが著しく伸びているが、官公庁向け大型案件は一過性か。ユニアデックスでのクラウドやセキュリティー基盤の構築等があったのか。

A：ユニアデックスでデジタル庁向けの案件があった。また、受注では情報通信系の研究機関向けの AI 系サーバの調達案件があり、サポートサービスは今後 5 年程度継続する。2Q にもユニアデックスで大型案件を計画している。

【質問者 D】

Q：持分法適用会社の一部事業を譲渡したとのことだが、今後も前期と同額程度の利益額が継続するのか。それとも事業譲渡により年間の利益額は小さくなるのか。

A：今回事業譲渡したのは主要ビジネスではなく、残存事業は今後も順調に伸びていく見込みであることから、今後も四半期では 3 億円程度の利益額（1Q の持分法投資損益から一過性収益分（5 億円程度）を除いた水準）が継続していくと想定している。

Q：輸出型の製造業の顧客は多くない認識だが、関税による直接的な影響はないか。

A：現時点では、関税の影響はない。投資に対して慎重になる顧客も出てきているが、現時点では具体的な影響はない。

【質問者 E】

Q：サポートサービスの売上総利益率について、ユニアデックスのリベート減少を考慮しても、通期業績予想に対して改善が進んでいないように見える。通期業績予想では、売上総利益率は 35%程度となっているが、いつ頃から改善される見込みか。

A：人件費等の上昇をすぐに価格に反映することは難しい。2Q、3Q 頃から売上総利益率が向上すると想定している。

Q：成長事業、コア事業の注力領域は、通期目標に対して少し進捗が遅い印象だが、2Q 以降で加速するのか。

A：特に、コア事業のリテール、エネルギー、モビリティ領域は、運営コストの上昇や前期に一過性の高収益案件があったこ

©2025 BIPROGY Inc. All rights reserved.

との反動減が影響している。運営コストはスキームを見直していく。2Q 以降のパイプラインも充足しており、通期目標達成に向けては予定通り進捗していると手応えを感じている。

【質問者 F】

Q：製品販売（ソフトウェア、ハードウェア）について、売上収益、売上総利益の 1Q 実績は、通期業績予想の増収、増益額を上回っている。2Q 以降に減少となるような何かリスク要因はあるか。

A：1Q 実績や受注残高を踏まえると、上振れの可能性はある。ただし、計上時期の影響を受ける可能性もあるため、現時点では期初見通し通りとしている。

Q：社内基幹システム刷新費用は通期で 3 億円減少の見通しだったと思うが、1Q で 3 億円減少している。2Q 以降は横ばいで推移するのか、期初見通しよりも削減できる可能性があるのか。

A：現時点では、期初見通しより費用は縮減できている。2Q 以降も順調に進めばさらに縮減できる可能性もある。ただし、最終的な受入れテストや移行テストは下期からなので、計画通り本番稼働できるよう進めていきたい。また、2Q、3Q については負担減になる見込みはあるが、前期は 4Q にリプランとしていったんプロジェクトを中断し費用は減少したため、今期の 4Q は前年同期比で負担が増す可能性もある。

以上

（注意）

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。
実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

©2025 BIPROGY Inc. All rights reserved.